

～近代的地震工学の原点となった災害写真～



●古写真DATA●

長崎大学附属図書館蔵

- ◎目録番号:1619
- ◎撮影者:日下部金兵衛
- ◎アルバム名:日下部金兵衛アルバム
- ◎撮影地域:岐阜
- ◎年代:年代未詳
- ◎色彩:カラー
- ◎形状:262x202
- ◎整理番号:39-1-0
- ◎キーワード:橋

ホームページでもご覧いただけます。

<http://hikoma.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>

【濃尾大地震(東海道本線長良川鉄橋)(21)】

Great Nobi Earthquake (iron bridge over Nagara River on Tokaido Main Line)

〈解説〉

幕末から明治中期に撮影された古写真により、近代化する日本の姿が海外に紹介された。これらの写真の中には、被害が撮影されたものがある。日本の荒々しい災害、台風や地震の被害が古写真により、欧米に紹介された。中でも有名なものが、「濃尾地震」を撮影した古写真である。明治24年(1891)10月28日、午前6時37分、岐阜県本巣郡根尾村を中心としてマグニチュード8の巨大地震が発生した。内陸に起きた地震としては、世界的にも最大級の規模であった。後に「濃尾地震」と名づけられた。

この写真は、濃尾地震により落橋した東海道本線の長良川に架かる「長良川鉄橋」を撮影したものである。震災後に訪れたイギリス人のバルトン(W.K. Burton)またはミルン(J. Milne)の撮影によるものであろう。この鉄橋は英人C.A.W.ポナール(C.A.W. Pownall)により設計され、明治21年(1888)1月に架設された、当時のわが国が誇る最大級の鉄道橋であった。地震直後の写真なので、明治24年(1891)11月初旬の撮影であろう。長良川鉄橋5連の内の3連の橋が落橋した。中央部の長い橋脚が、2カ所両端とも完全に倒れ、そのまま川底に落ちこんでいる様子が撮影されている。

根尾村水島には、上下のずれが最大6mにもなる断層が生じた。これは、全長80kmに及ぶ大断層の規模を象徴的に示すものとして、小藤文次郎博士が論文で紹介し世界的に有名になった。この断層は後に「根尾谷断層」と命名され、教科書に地震の被害として紹介され、日本の地震の国民的な象徴となった。現在、国指定の特別天然記念物に指定されている。

長崎大学附属図書館の「幕末明治期日本古写真コレクション」の中で、濃尾地震の写真は一冊のアルバムになっている。写真のように彩色された超高精細な写真は、芸術写真の域に達し、今から百数十年前の災害の姿を生々しく現在に伝えている。激しい地震にさらされる日本の災害を初めて世界に紹介し、また日本の近代的地震学、地震工学の原点となった記念すべき一群の写真である。